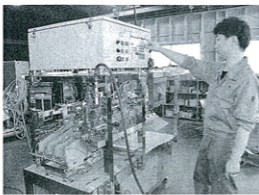


# ポリ容器飲料に活路

棒状のポリエチレン製容器に入った清涼飲料を凍らせた氷菓の需要が増える季節を迎える。備南工業（広島県福山市）は、ポリ容器に飲料などを入れる充填機（メーカ）として、国内シェア（占有率）9割以上を誇る。小坂章則社長（65）は「顧客の要望を踏まえ、機械の改良を重ねてきた結果」と振り返る。

1955年頃、サイダーやラムネの瓶を洗う機械の製造を始めた。ところが、60年代に入ると



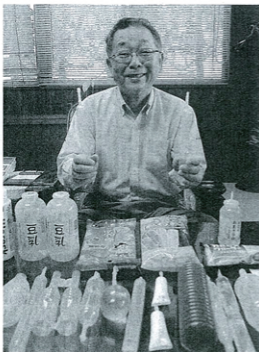
備南工業

広島県福山市

充填機

大手飲料メーカーの缶ジュースが人気を集め、瓶の需要が減少。業績が悪化し、取引先の飲料メーカーも廃業に追い込まれたという。生き残りをかけ、着目した分野

が、成長が期待されていたポリ容器だ。充填機の製造なら、瓶の中に洗浄液を噴射させる洗瓶機で培った技術を生かせると判断。75年頃には大手菓子メーカーから「ポリ容器に入った清涼飲料の商品化に向け、充填する機械をつくってほしい」と注文を受け、充填機メ



清涼飲料などを入れるポリ容器を手に、「ポリ容器の使い方の幅を広げていきたい」と語る小坂社長（広島県福山市で）

「カー」として本格参入することを決めた。

課題は空気だった。ポリ容器内に細いチューブで飲料を入れる際、液体が空気に触れることで品質の低下や衛生面の問題を招くため、容器内を真空状態にできない

か模索。容器の中の空気を抜いた後、飲料を注入する技術を確認し、「パキユーム充填方式」として、78年には特許を取得した。

80年頃からポリ容器の製造も始め、充填機とのセット販売で、顧客の要望に合った商品づくりに対応。食品メーカーとの共同開発で、細長い棒状のポリ容器の中央にくびれを付けた商品も、「1本を、

きょうだいが分け合えるような形に」という子供がいる家庭のニーズを実現させたものだ。

充填機の改良を進め、棒状のポリ容器に入った清涼飲料は1時間で9600本の製造が可能となった。健康志向の高まりを背景に、豆乳や卵豆腐をポリ容器に入れる

充填機も製品化。現在では、米田やメキシコ、中国、タイなど海外からの受注も増え、今月もタイの食品メーカーに卵豆腐用の充填機を2台販売した。

今後、介護用の流動食や化粧品をポリ容器に入れた商品に挑戦する考え。小坂社長は「顧客のニーズに応じた形や機能を提案できれば、ポリ容器の可能性は、さらに広がってくる」と力強く語る。

（福山支局 浦野親典）

## 【概要】

1947年、冷東機械製造販売の「小坂鉄工所」として創業。56年に現社名の株式会社を設立した。飲料や豆乳、卵豆腐用のポリエチレン製容器と充填機を製造販売。資本金1500万円、従業員16人。2015年12月期の売上高は約4億円。